Assembly EAST 2017　乙８番テーブル

ジャッジ：豊嶋（立教4）
古瀬（青学4）

テーブルメンバー

寺内（早稲田3） 山村（早稲田2） 杉田（フェリス3） 柳沼（東北2）
永崎（フェリス3） 中井（明治2） 渡邊（立教3）

議論の流れ　　文責：豊嶋哲也（立教 4）

ジャッジとメンバー間で認識のずれがあるかもしれませんが、ご容赦ください。

Narrowing～OP 決め

寺内（早稲田3）によるナロー中、永崎（フェリス3）により、「ethical についてはいつ話すことができるか？」という Q がなされる。ダウトや S の意図はなかったため、寺内が「いつ話すかは OP にゆだねる。もし自分が OP になれば話すエリアを設ける。」と答え収束する。

OP には柳沼（東北2）、寺内が立候補。トピックは二人とも臓器移植であったが、柳沼のマンデートは、臓器移植を合法化する、というもので、寺内のマンデートは脳死患者を強制的にドナーにする、というものであった。QA タイムを経て寺内が OP に選出される。

ASQ

Harm にて、柳沼（東北2）が add Mandate のアイデアがあることを示すも、この段階では showing にとどめる。これ以外にアイデアに関する話は行われなかったものの、Harm、Cause において多数の Q、evi の提示が行われる。テーブルに共有された情報量は多かったものの、そのいずれも今回の結論に影響したとは言い難く、結果的に時間を余計に使ってしまった。
NFC では誰も意見を提示せず PLAN サイドへ。

PLAN

Mandate において、寺内がナローの段階で宣言していた、”ethical”について話すための手順が示される。通常通り AD を確認したのち、この Mandate が ethic に反しているか否か検証し、AD が”real”であるか確認する、というものであった。この場では提示にとどめ、AD 確認後に改めて検証するか否かを決定することが共有される。

また、Harm で共有された柳沼の add M について検証するも、採択されることはなく、OP の定義のまま議論を進行することとなる。Sol に意見提示はなく、AD が立論される。

AD 立論後、先ほど提示された新たなプロシの検証に移る。が、プロシの説明後、内容やプロシ

の必要性などに関する多数の Q や、そもそも今、このプロシで話さなければならないのかという（反論性は伴わない）主張が乱立し、一時間ほど議論は停滞する。その後、通常のコンパリソンで結論を出すこととし、寺内はプロシをオミットする。

DA 決め～コンパリソン

DA は杉田（フェリス３）の提示した脳死患者のアイデアが選ばれる。

寺内が「一人の脳死患者の臓器により最大４人の患者を救うことができる」というアイデアを提示。残り時間の少なさと、ここまでの停滞で疲弊していたのか、特に反論がなされることもなくこのアイデアが立論される。

その後杉田が contribution に関するアイデアを提示したところで時間切れとなった

全体総評

停滞についてと、テーブルに欠けていたものについてそれぞれコメントします。

・停滞について

今回は ASQ、AD 後のプロシにおいて停滞が発生したが、その共通の原因として言えるのは、介入の浸透率の低さにあると考えます。自身の発言の意図（Q/C/S/doubt）を示す、発言をチャートに落とす、QCACS を心がける、など、基本的なことではあるがこれらをおざなりにせずに意識することが、テーブルの進行において重要となるので、気をつけてほしいです。

・テーブルに欠けていたもの

今回のテーブルにおいて大きく欠如していたものは、反論とトリートです。

オピシ検証においても、new プロシにおいても、コンパリソンにおいても、一度も反論と呼べる介入がありませんでした。”make discussion fun!”という言葉はよく出ていたものの、厳しく言うと、このテーブルで行われていたのはディスカッションといえるものではなく、寺内のスピーチといってもいいものでした。今回は長い停滞でモチベーションを失っていたのかもしれませんが、結果にかかわる舞台なので、最後まで自分のアイデアを提示し、食らいつく意志が見たかったです。

トリートに関しては、議論が混乱、停滞しているときにその原因を明らかにしチャートに落とす、エリアに関係のない話なら飛ばして先に進む S を打つ、などの単純な介入が足りなかったように感じます（多少は行われていたがまだ少ない）。今回、もしトリーターと呼べる人がテーブルにいたら、その人が中心となり議論を回すことができ、一位を獲得できた可能性もあったので、議論を推進し、テーブルの中心になるために何が必要なのか考えてほしいです。

《個人順位と選定理由》

文責：古瀬桃子（青学4）

1 位：寺内（早稲田3）　乙一

オピニオンプレゼンターとして AD を立論させた点、コンパリゾンエリアにおいて AD＞DA ロジックを立論させ take plan へと結論づけた点を評価し、1 位に選定しました。オピメとして、議論が停滞した際など話を収束させ、また持論を展開させながら議論を進めていく姿勢はとても良かったです。ただ、get AD 後に自らが提示したトーキングポイントに基づくニュープロシにより、議論が停滞しテーブル内で浸透することなく結局中身が話されずに終わってしまったので、しっかりとその new proce で話すことによるメリットや導き出される結論を説明し、テーブルメンバーのニーズに沿った S を打てていれば尚良かったと思います。お疲れ様でした。乙一おめでとうございます！

2 位：山村（早稲田2）

コンスタントに Q や C を重ね、議論進行に大きく貢献していた点、また適宜見られたクリティカルな発言を評価し、2 位に選定しました。ニュープロが提示され話が停滞した際など、最もマクロな視点で議論を俯瞰できていたように感じます。ただ、その質の高い Q や C ののち S まで提示されることが少なく、最終的に話を収束させるまでに至らなかったのが非常にもったいなかったです。議論を大枠で捉え、客観的な視点で介入する力があると思うので、これからプレパを沢山重ねてより推進力を身につけられるよう頑張ってください。期待しています！

3 位：杉田（フェリス3）

適宜行われていた Q や、また DA を立論しコンパリゾンの土台を提供した点を評価し、3 位に選定しました。テーブルメンバーの話を毎回うなずきながら丁寧に傾聴する姿勢がとても好印象でした。ニュープロが提示された際などに、マクロな視点から Q を行っていて良かったのですが、オープン Q が多いように見られたのがもったいなかったです。着眼点は鋭いと思うので、Q の際に相手の意図をくみ取った choice を提示してあげると、S にも繋げやすくなると思います。アッセン、現役お疲れ様でした。エデュケ頑張ってください！

4 位：柳沼（東北2）

コンスタントに議論に介入し、流暢な英語でテーブルを活発化させた点を評価し、4 位に選定しました。介入量が多く、様々な角度から持論を展開していた点は良かったのですが、最終的に何

を主張したいか・話したいかなどが未提示であったり、突発的な介入が多くみられ、発言として判断できる介入が少なかった点がもったいなかったです。今後は、折角持っている自分の意見をテーブルに浸透し議論をするために、まずはプレパを通してタスク理解を深めていければと思います。お疲れ様でした！

5 位：永崎（フェリス3）
テーブルにおいて論点を提供した点を評価し、5 位に選定しました。ナローにおいて、倫理についての話はできるかという Q をしたことから、倫理というテーマが今回のテーブルにおけるひとつの論点になるように思われましたが、その論点からどのような議論をしたいかという具体的な主張や、またその話をするためのアーギュメントを提示することなどがなかった為、実際に話されることがなく終わってしまったのが残念でした。持論をもとにどのような議論を展開していくかをしっかり考えた上で提示していたら、順位が大きく変わっていたと思います。アッセン、現役お疲れ様でした！

6 位：中井（明治2）、渡邊（立教3）
介入がみられなかった為、この順位としました。

議論に介入するためには、いい意味で空気を読まないことが大事かなと思います。自分の発言に自信が持てなかったり、言っても意味がないんじゃないかとかを考えすぎると、なかなか発言するのが難しいです。そこで勇気を出して自分の意見や疑問を、一言でも率直に伝えてみると、案外それがテーブルに必要な意見だったりして、議論が楽しくなります。
今後はぜひ、少しでも自分の思ったことをテーブルで伝えてみてください！

さいごに
みなさん、アッセンお疲れ様でした！3 年生は現役最後の大会ということで、プレイヤー引退おめでとうございます。今回のテーブルで各々やり残したことや感じたことを忘れずに、自分自身や大学の成長に繋げていけることを願います。2 年生は先輩がプレイヤー引退という一つの区切りを迎えて、ここから徐々にディスカッション生活の折り返しが始まりますが、1 年後に少しでも悔いなく引退するためにも、残された時間を有意義なものにしてほしいと思います。引退まで、ほんとあっという間です！
長くなりましたが、アッセンブリーほんとにお疲れ様でした！（古瀬）

アッセンお疲れ様です！3 年生は長い現役生活お疲れさまでした。これからは、自分の強み、残すべきものは何なのかを考えて、後輩に伝えていってください。2 年生はこれからの 1 年が本番です。ランクを目指す、とにかく楽しむなど様々な選択肢はありますが、引退するときに後悔しないような選択をしてください。（豊嶋）